＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471903086
法人名	新星ハウス株式会社
事業所名	はくおうの里
訪問調査日	平成19年10月29日
評価確定日	平成20年3月6日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日　平成20年3月11日

【評価実施概要】

事業所番号	1471903086
法人名	新星ハウス株式会社
事業所名	はくおうの里
所在地 (電話番号)	神奈川県横須賀市長沢1-34-15 (電　話) 046－839－2626

評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10　横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成19年10月29日	評価確定日	平成20年3月6日

【情報提供票より】(19年10月　8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成　18年　3月　1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9　人
職員数	13　人	常勤　4　人, 非常勤　9人, 常勤換算　6,8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート　造り
	3　階建ての　階　～　3　階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	65,000　円		その他の経費 (月額)	35,000　円	
敷　金	有 (　　円)		(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (　　円) (無)		有りの場合 償却の有無	有／無	
食材料費	朝食	300　円	昼食	300　円	
	夕食	700　円	おやつ	200　円	
	または1日当たり　1,500　円				

(4) 利用者の概要 (10月　8日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3	名	要介護2	0	名
要介護3	3	名	要介護4	2	名
要介護5	1	名	要支援2	0	名
年齢　平均	82 歳	最低	73 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	横須賀市立市民病院　田澤歯科医院　まつもと内科クリニック　ふかさわクリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所は、京急長沢駅から徒歩3分の所に立地しているビルの3階にある。
1階玄関から3階までのエレベーターは専用で、日中は施錠せず鍵をかけないケアを実践している。吹き抜けの天窓からは適度な光がさし込み、壁は無垢材が多く使われ、廊下は回廊式で幅員がある等、工夫された共用空間となっている。
職員側の都合を優先する事のないように努めており、利用者は、編み物をしたり日常的に散歩に出かけるなど自分のペースで生活している。
職員は生き生きと、利用者は安心して生活しているように見受けられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目：外部4)

外部評価は今回が初回である。自己評価後、ミニミーティングで自己評価票の項目順に毎日1項目づつ確認を行なっている。

今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)

自己評価票は、管理者及び計画作成担当者が作成した。自己評価票作成後にミーティングで職員に提示して、共有を図っている。理念の達成度を確認するツールとして自己評価票を活用して行く意向である。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)

3ヶ月に1度、複数のグループホームが合同で運営推進会議を開催している。事業所の見学や意見交換を行い、ターミナルケアの取組等について話し合っている。グループホームが合同で参加していることもあり、評価結果を会議で公表する等の取り組みについては話し合われていない。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)

利用者の暮らしぶりは、家族の来訪時や毎月の便りで伝えている。健康状態の変化や問題がおきた時は、電話で伝えている。預かり金の使途確認は、領収書と出納帳のコピーを送付して毎月行なっている。
苦情相談受付窓口のポスターを掲示したり、意見箱を設置して家族の意見等を得られるよう努めている。12月のクリスマス会で家族会発足について話す予定である。

重点項目④

日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)

町内会に加入し、回覧板を廻したり、盆踊りや大運動会等に参加して地域の人々と交流している。書道やフラダンス等のボランティアとして地域の方が訪問してくれる。
管理者は、介護保険等に関連した地域の方の相談に応じている。

2. 評価結果(詳細)

(▨ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域活動に参加し、市町村、地域保健医療、福祉サービスと綿密な連携を図る」等の運営方針に基づき、「地域との交流を図り、明るく生き生きと活動できるよう援助します」「信頼と愛情と笑顔を大切に」等4項目の事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、管理者が就任した際に全職員で話し合い作成した。事務所に掲示したり、職員に配布して共有している。管理者は、日々のサービスの場面でその都度様子を見ながら、職員の理念の意識づけに努めている。		
2.地域との支えあい					
3	5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、回覧板を廻したり、盆踊りや大運動会等に参加して地域の人々と交流している。書道やフラダンス等のボランティアとして地域の方が訪問してくれる。管理者は、介護保険等に関連した地域の方の相談に応じている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表は、管理者及び計画作成担当者が作成した。全職員参加のミーティングで自己評価票を確認し、自己及び外部評価の意義を共有している。自己評価票を達成度確認のツールとして活用する意向で、評価後は表を1項目づつ毎日確認している。		
5	8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1度運営推進会議を開催している。事業所の見学や意見交換を行い、ターミナルケアの取り組み等について話し合っている。会議には、複数のグループホームが合同で参加していることもあり、評価結果を会議で公表する等の取り組みについては話し合われていない。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、運営推進会議で挨拶を交わしたり、役所に出向いたり、電話をする等で行き来する機会を作っている。疑問がある時は市の担当者から指導を仰ぎ課題を解決している。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1度程は家族が来訪している。その際の声かけや「はくおうの里お知らせ」で利用者の暮らしぶりを伝えている。健康状態の変化や問題がおきた時は、電話で家族等に伝えている。毎月領収書と出納帳のコピーを送付し預かり金の使途確認を行なっている。12月に家族会発足について話す予定である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所と外部機関の苦情申し立て窓口を記載したポスターを事業所内に掲示している。運営に反映できるよう、人目の無い1階に意見箱を設置したが、これまで意見等は上がっていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動はない。利用者が混乱しないよう、職員の離職は利用者に報告していない。結婚退職の際は、花束贈呈をして利用者に伝えている。新しく職員を採用した時は、利用者の不安を解消するため、馴染むまで時間をかけ見守る事を心がけている。また、勤務体制を厚くして引継ぎを行っている。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パートの職員もチームの一員として研修やミーティングに参加している。研修に参加した職員は研修報告書を提出する。研修報告書には、参加日や主催者、講座名などが記入されているが、講義内容の記載や資料の添付は無い。職員の研修受講履歴は把握しているが、研修計画書は作成していない。	○	働きながらトレーニングできるよう、研修報告を充実し職員が内容を共有することを期待する。また、職員を段階に応じて育成するための計画をたてる事を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横須賀市認知症事業者連絡協議会に加入している。交換研修が行なわれ、相互に研修報告して意見交換している。介護支援専門員の資格を取得している職員は、県や市の研修に参加し同業者と交流している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	**○馴染みながらのサービス利用** 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの利用を開始する際は、居宅を訪問したり、利用者に事業所を見学してもらっている。ケアマネジャーから細部の状況説明を受ける等、家族や本人が一番困っていることや不安に思っていることを把握し、思いを受け止められるよう努めている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	**○本人と共に過ごし支えあう関係** 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の特技や趣味を把握している。 職員は、利用者から料理や歌を教えてもらい感謝したり、洗濯物をたたみながら話をする等、一緒に過ごしながら利用者から学んだり支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	**○思いや意向の把握** 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報等をもとに、日々の言葉や家族の話から「出かけたい、家事をしたい」等利用者の思いや意向を把握している。意向を把握するのが困難な利用者は、言葉をかけた際の表情等から把握している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	**○チームでつくる利用者本位の介護計画** 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族からは来訪時等に、利用者からは日々の関わりの中で思いや意見を聞き、介護計画に反映している。「アセスメント表」等を活用し、介護計画「グループホームサービス計画（1・2）」を策定している。利用者それぞれの問題や現状にそって、看護師とも話し合っている。		
16	37	**○現状に即した介護計画の見直し** 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直し期間は2～6ヶ月となっている。状況変化がある場合は、その都度見直しを行っている。介護計画に沿った個別の「日課計画表」を作成し、カーデックスに入れてケア記録を記し、現状を捉えている。カンファレンスの内容を「サービス担当者会議の要点」にまとめ介護計画書を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携に努め、提携病院等を明確にしている。美容院や一時帰宅の要望に応じ送迎を行う等の自主サービスを行なっている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の以前の受診経過や現在の受診希望を把握して、家族の対応で精神科を受診したり、提携医療機関で定期的な訪問診療を受診している。提携医療機関の内科医には、24時間電話対応をしてもらっている。看護師と週2日各2時間勤務の契約を結び、医療連携に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営規定の、退去の勧告の項目に「入居後利用者の状態が変化し入居の継続が困難と認められる場合は退去していただく事がある」との記載がある。重度化した場合や終末期のあり方についての方針は定まっていない。	○	重度化した場合や終末期のあり方について方針を定め、できるだけ早い段階から本人や家族等、職員を含め全員が方針を共有する事を期待する。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねるような言葉かけや対応がみられた時は、管理者が注意を促している。トイレの扉は防火扉で重いためカーテンを引いて対応しているが、プライバシーを損ねないよう気を配っている。記録等の個人情報は事務所に保管している。申し送りの際は、利用者の名前をそのまま使わず、数字に置き換えて伝達している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先する事のないよう努めている。遅い食事、好きなテレビ番組を見る等、利用者が自分のペースを保ちながら暮らせるよう支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、見守りながら利用者と一緒に同じ食事をしている。外食、出前、誕生会等の行事の際に希望の食事を楽しんでいる。利用者は、座ってできる野菜の皮むき等の下ごしらえや調理、下膳等を職員と一緒に行っている。おはぎ等のおやつを一緒に作ることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	湯温やゆったり入浴できるよう時間等を考慮して入浴を楽しめるようにしている。毎日お風呂を沸かし、午前中に入浴している。利用者ごとに入浴の曜日が、おおよそ決められているが、入浴日以外でも希望があれば支援している。夜勤帯の入浴支援はしていない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かして、職員と共に洗濯物をたたむ、歌を唄う、ボランティアの習字等に参加する、編物をする等、楽しみごとを持ったり作品を作ったりできるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は、日常的に買物や散歩に出かけている。また、季節等に応じてマリンパーク、花見、苺やみかん狩り、外食等に出かけている。車椅子を使用している利用者も外気浴や散歩等のほか、季節に応じて出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は施錠していない。玄関は、日中は1階、3階共施錠していない。職員は、動きが激しくなると外に出ようとする等、利用者一人ひとりの外出の傾向を把握している。現在一人で外出することを希望する利用者はいない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画を作成し、昼夜を想定した避難訓練等を年2回行なっている。本年5月に消火･通報･避難の訓練を行い、12月に自主防災訓練を予定している。地域の防災訓練に職員が参加している。地域の自主防災組織に協力を得られるような働きかけはしていない。水等の備蓄はしていない。	○	災害時等に協力が得られるよう、地域の自主防災組織に日ごろから働きかけることを期待する。 また、非常用食料･水などを準備しておくことを期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は「バイタルチェック表」に記録している。水分量は1200ccを目安にして、疾病があったり摂取が難しくなった時に記録をしている。業者の栄養士が作成した献立や食材を利用して栄養バランスを保っている。利用者の状態に応じて、ミキサー食等の支援をしている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りカレンダーを作成し居間に飾り季節を感じられるよう努めている。平素は折り紙等の装飾はせず、無垢材の壁等を活かして家庭らしさを出している。天窓等から適度な光が差し込み、小窓の開閉で換気に努める等、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。危険回避のため、構造上死角になる場所にモニターカメラを配している。設備は一般家庭と同様の物である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	重要事項説明書に「利用者が入居前に使用されていた家具・仏壇等の持込を希望される場合は事前に相談下さい」と記載し、大きな家具の確認をしている。居室にはラジカセ、テレビ、写真、衣装ケース等の好みの物が持ち込まれている。畳で生活していた利用者は、畳の敷物を敷き居心地よく過ごせるようにしている。		

自 己 評 価 表

○ 自己評価は全部で100項目あります。
○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	22
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	3
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	7
5．人材の育成と支援	4
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1．一人ひとりの把握	3
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1．その人らしい暮らしの支援	30
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ．サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族 ＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	新星ハウス株式会社
（ユニット名）	グループホームはくおうの里
所在地（県・市町村名）	神奈川県横須賀市長沢１－３４－１５第２新星ビル３Ｆ
記入者名（管理者）	田中志津子
記入日	平成　１９ 年　１０ 月　８ 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▨ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の皆様が入所より交流のあったご近所、友人の皆様との関わりを大切に、「地域との交流を図り、明るく生き生きと活動できるよう援助します。」又「信頼と愛情と笑顔を大切に」等、残された力で暮らしの喜びと自信をもって生活できるよう援助しております。	○	利用者さんの身体のコンデション及び天候、気温を考慮し、散歩や買い物等で地元の皆様と接し友好を深めていく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は率先して理念達成に取り組んでいる。又職員も理念を共有し努力している。	○	理念に基づき日々対応し取り組んでいる。なお、入居者は入居前の友達より疎遠になりがちですが職員はお友達確保のため真っ向から真剣に日常的に取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	町内会の会合、家族会及び運営推進会議の委員の皆様に事あるごとに理念を説明し理解と賛同を頂くよう努力していきたい。	○	今後も機会ある事に、特に町内の皆様及び民生委員の皆様に話し掛け理念をご理解賜わりたい。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホーム自体が3階にあり隣近所の方が気軽に声を掛けてくださるような好条件ではないのですが、日常的な付き合いが出来るよう努めている。	○	町内活動に積極的に参加し友好関係を保持、継続したい。又お年寄りの散歩中には時々前の公園で犬の散歩中のご近所の方に「こんにちは」と声を掛けていただき感謝しています。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内との付き合いの基本は、町内の行事への積極的な参加であり地元の人々と交流することに努めている。	○	今後は町内の役員も積極的に受け入れ近隣の町内との友好関係を強化したい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護保険関係に詳しい管理者は,町内の虚弱なお年寄りを抱える家族に自立に向けての介護相談を気軽に受け入れ取り組んでいる。	○	家族からの電話、来訪での介護の事や入所先当の相談を受けたり他業者の紹介等している。
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員等は利用者に対する対応がマンネリ化していないか、又理念を達成するために確実に進行しているかを自己評価及び外部評価を確認し取り組んでいる。	○	施設創設以来はじめての評価を頂くわけですが、今後も理念達成のため職員は一丸となり切磋琢磨いたします。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方々にも、施設の内容をご理解して頂き力強い助言をいただきサービスの向上に努めたい。	○	施設の特徴をもっと町内の皆様にアピールする必要があるとの委員の助言に対し、まず町内会、老人会を通じて近く宣伝したい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎日の業務に疑問が発生するたびに、行政の担当者にご迷惑お掛けし迅速なご指導を仰ぎ感謝している。	○	行政より適切な指導を受けておりますが、今後も自助努力は当然ですが行政の指導を賜り課題等の解決に邁進したい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在入居者ではこの制度に該当する人はおりませんが、この事業に関わる職員としては制度の熟知に努力している。		今後、介護支援専門員により部内教育を実施し、意識の高揚を図りたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の防止については、運営者、管理者により常に厳しく徹底しておりますが職員もその重要性を確認し介護に対応している。		外部の研修に職員を順次参加させ意識の高揚を図りたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4．理念を実践するための体制				
12	**○契約に関する説明と納得** 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	契約に関する事項では現在のところ特に問題はなく進んでいる。		契約に関しては努めて複数の親族等に参加していただき、入念に説明し努めて契約書を持ち帰っていただき、納得した上で日を改めて締結するよう配慮している。
13	**○運営に関する利用者意見の反映** 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に意見等を言える環境を作り出し職員等は対応に努力している。	○	施設内にご意見箱を設置し、利用者及び家族等の皆様にも活用をお願いする。なお、行政･国保連等にも苦情受付けがあることを徹底する。
14	**○家族等への報告** 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎日の生活に変化があった場合はその都度通知している。又一月に一回は現況を通知している。	○	本人が希望すればその都度通知している。グループホームの便りを作成する。(行事での様子等スタッフの紹介等)
15	**○運営に関する家族等意見の反映** 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在家族会は開催しておらず、早急に実施し運営に結びつけていきたい。	○	施設内にご意見箱を準備してあり自由に意見を述べられるよう配慮している。又家族会を実施し運営に関する率直な意見を発表する場を設けたい。
16	**○運営に関する職員意見の反映** 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の活性化のため毎月スタッフミーティングを開催し、職員との会話を尊重し「業務改善」意見を奨励している。		介護に対する意欲の増進及び業務の活性化に役立っている･
17	**○柔軟な対応に向けた勤務調整** 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況(病弱等)により勤務体制を調整している。		状況により管理者と職員で話合い勤務体制を厚くしている。
18	**○職員の異動等による影響への配慮** 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員の馴染みの関係を重要視し、職場の良好な環境の確保に最善をつくし、今後も利用者へのダメージを最小限にしたい。	○	サービスの質の確保の根本は、利用者と職員の馴染みの確保でありますが、更に利用者と職員間の融和･信頼関係を確保することに最善を尽くしている。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5．人材の育成と支援				
19	**○職員を育てる取り組み** 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらﾄﾚｰﾆﾝｸﾞしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を積極的に確保し、更に内容の充実発展に努めたい。	○	今後は外部研修に積極的に参加させ、合わせて法人内外の研修につなげ介護のレベルアップにつなげたい。
20	**○同業者との交流を通じた向上** 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ﾈｯﾄﾜｰｸづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の研修会及び同業者の施設を見学、研修しサービスの向上に努めている。		介護支援専門員は自発的に県、市の研修会に参加し努力している。
21	**○職員のストレス軽減に向けた取り組み** 運営者は、管理者や職員のｽﾄﾚｽを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ｽﾄﾚｽ解消のため休憩室を確保しております。又、慰安を兼ねた食事会を開き成果をあげている。	○	今後は勤務の調整を図り、日中の慰安会を図りたい。
22	**○向上心を持って働き続けるための取り組み** 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は利用者との懇談及び家族との対応で、地域密着型での職員の勤務状況を認識すると共に、平素の介護状態を把握している。又職員は理念に基づき自由に働けるよう配慮している。	○	職員はそれぞれの特技（歌、絵等）を活かした勤務により利用者の生活の継続性を支えることに貢献している。
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	**○初期に築く本人との信頼関係** 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人より詳細にお話を承り、担当のケアマネよりも細部状況の説明を受けている。特に本人が一番困っていること又不安に思っていることを把握している。		入所している皆さんの状況も合わせて理解していただき友好的な関係を築けるよう努力をしている。
24	**○初期に築く家族との信頼関係** 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の困っていること、不安に思っていることをご自宅に訪問しお尋ねしている。		家族の不安を払拭することに時間を掛ける。特に利用者が私どもの施設に適合するか慎重に話し合っている。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者家族が現在困窮していることを把握し、その解決に向け速やかに対応する。		私たちの施設の長所、短所を率直に説明しご理解を仰ぐ。 状況により他の施設を紹介し、抱え込まないよう配慮している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設に馴染むまではサービスは様子を見る。職員や入居中の方とも馴染むまであせらずゆっくり時間を掛け本人の様子をそれとなく遠くより見守り支援のチャンスを待って対応する。		職員の連携を蜜にし本人の情報を共有している。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の中には過去に介護を経験されている職員もあり入居中のお年寄りの現状は痛いほど理解している。もちろん入居者とは親族同様の信頼関係を確保し喜怒哀楽を共にしている。		孤独な状況になりがちな利用者を支えながら、自立に向け職員は奮闘している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	現在は家族から離れ施設にゆだねたような関係になっている家族も散見されるが、今後は家族より積極的な支援を期待している。	○	現在は職員が抱え込んでいる現状を緩和する必要がある。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	市内に住んでいられる家族の方の面会の回数等は良好と思われますが市外の家族の利用者さんは疎遠の状況にあり今後の課題である。	○	市外に住まわれている家族の利用者さんで面会の少ない方は今後も施設より要望等を行い、家族との接点の機会を確保したい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの町内、友人との関係を大切に支援したい。	○	住み慣れた町内、知人等より疎遠にならないようドライブ等を兼ね積極的に支援したい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共通の話題等で良好な関係を保持しているが、今後もこの状況を継続、発展させたい。		職員の見守り等により、共に楽しく過ごせる体制の保持のため支援する。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入所待ちの会が老人福祉施設等よりの通知で移籍になる方に対しては懇切丁寧にグループホームでの生活状況を通知、共有して頂き新しい施設での生活に支障が発生しないよう支援している。なお現在該当者はいない。		移籍した新しい老人ホームでの生活がスムーズにいくよう支援すると共に退所後本人家族等が孤立等の問題に遭遇した場合は、全面的に支援を惜しまない方針せある。
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
１．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	重度の認知症の利用者さんからの「思いや、意向」の把握は大変困難で苦慮しますが、家族等からの情報でかろうじて把握している。	○	親族からの情報や入所前の生活を考慮し、又職員が本人の視点に立って「思い、意向」の把握に取り組んでいる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーの問題もあり把握は困難ではありますが、本人や家族との信頼感の確保によりある程度は把握している。	○	利用者個々の歴史や経過を把握することが大切で今後も把握に努力したい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	目標指向型の介護に専念し自立に向け過剰介護にならないよう見守りを重視し細心の注意を傾注し対応している。	○	本人の出来ること、出来ないこと。分かること分からないことを把握する事が大切であり実施している。今後も現状把握にベストを尽くす所存である。
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすためにどんな支援が必要か、家族の意見を参考に、また毎日の様子、過去の生活を参考に検討し計画を作成している。	○	面会等で来られた知人、親族よりのお話も重要な情報でありプランの参考にしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は現場で実践的に対応できるよう作成しておりますが期間にとらわれず、変化に応じて臨機に計画の見直し、変更等に対応している。	○	家族等よりの要望が無くても職員は常に新鮮な目で見守る。今後も努力研鑽する。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別に記録を残し、情報を共有している。		本人の様子を記録し、職員は共有すると共に介護計画との整合性を確認、又は見直しに役立てる。
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の要望により、一時帰宅等の要望があれば送迎を含み臨機に対応している。		突然自宅に置いてきた物が気になり帰宅願望が発生した場合は、家族と相談し臨機に対応する。
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	外出先での不慮の事故及び施設での火災等を想定して警察、消防とも連携していきたい。又ボランティアを導入し成果を上げている。		外出中に施設に帰れない場合を想定して警察、近所の皆さんに平素より状況を説明し依頼をする。ボランティア（書道、フラダンス等）の受け入れにより成果を上げている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在のところ介護保険適用以外の他のサービスを要望する方はおりませんが施設としてはいつでも対応できる体制は出来ている。		施設だけで抱え込まず状況により、又要望があれば前向きに対応したい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	施設との地域包括支援センターとの協働は少なく、今後発展させたい。	○	利用者個々の権利擁護等について地域包括センターと協働、支援を仰ぎたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	開業医と往診医の医療機関と提携している。本人、家族に医院、往診を選択していただいている。		かかりつけ医を優先させ、状況により主治医に対応していただいている。往診医は24時間対応で感謝している。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	**○認知症の専門医等の受診支援** 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者さんの一部の方は専門医の受診を受けている。他の利用者さんについて家族よりの承諾を頂き次第対応したい。	○	家族と相談の上早急に専門医を開拓し信頼関係を確立、個別支援を実施したい。
45	**○看護職との協働** 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師にいり日常の健康管理や相談を実施している。その上で受診の必要があるか等の判断を行っている。		毎日の生活の中から個別の健康管理を実施している。又即応体制に迅速に対処できる状況を確保している。
46	**○早期退院に向けた医療機関との協働** 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院者が発生した場合は、家族、病院と協議し協働、連携している。	○	入院した際は努めて短期間に入院目的が達成するよう病院サイドと家族を含め話し合っている。
47	**○重度化や終末期に向けた方針の共有** 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在終末期に該当する方は在籍しないが、重度の利用者さんに対してはかかりつけ医の指導の下で定期往診を始め適切に対応している。	○	今後も家族と接点を設け介護等の対応方針について話合い共有していきたい。
48	**○重度化や終末期に向けたチームでの支援** 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在終末期の該当者は在籍しておりませんが、今後はかかりつけ医、主治医と今後の変化に備えて検討したい。	○	終末期の介護に備え、家族や医療関係者と連携を図ることが大切であり早急に連携、対応したい。
49	**○住み替え時の協働によるダメージの防止** 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今年度介護老人福祉施設に移籍した方がおられますが、相手施設との協働でダメージの防止に最善を尽くした。今後も相手施設に協働したい。		相手先の要望にこたえると共に事前に本人のサマリー、習慣、好み及び介護の工夫等を個人情報保護法に配慮しつつ通知し協力したい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	**○プライバシーの確保の徹底** 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケアマネージメントでは利用者、家族のプライバシーを聞き取るために施設としては厳重な守秘義務が課せられている。又職員もこの趣旨を理解している。	○	サービス担当者会議の席では公然とプライバシーに関わる会話が飛び交いますが、会議の前後に司会者より厳しくプライバシーの保護を強要し、職員は納得、理解している。
51	**○利用者の希望の表出や自己決定の支援** 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は常に利用者が自分で決めたり希望を現したりすることを大切にし、それらを促す取り組みを日常的に実施している。		毎日の生活の中で意図的に選んでもらう場面を作っている(入浴の順番、テレビ番組の選局、散歩先の選択等)
52	**○日々のその人らしい暮らし** 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自立支援を図るため利用者の「できそうなこと」「やりたいこと」を極力手を出さず見守りを重視している。		散歩、買い物は希望があれば利用者の健康と安全が確保されれば実践するよう配慮している。。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	**○身だしなみやおしゃれの支援** その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ほぼ希望どおり実践している。		身だしなみについては、それぞれの好みどおりに、又理美容については、希望どおり(お店に行く)支援している。
54	**○食事を楽しむことのできる支援** 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外出以外は基本的には、一日3回施設での食事の準備をするため元気な利用者さんには食事の支度を実施していただく。又後片付けも手伝っていただくよう配慮している。		利用者と職員が同じ食事を一緒に楽しみながら、食べ方の混乱や、食べこぼし等に対する支援をさりげなく実施している。
55	**○本人の嗜好の支援** 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	基本的にタバコに関しては禁止している。火災予防上全館禁煙になっている。		毎日、散歩に出た際、利用者が好みのおやつを買うよう実施している。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツを出来る限り使用しないで済むように利用者の排泄パターンを把握しトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を実施している。		個別の24時間体制の排泄記録を作成し管理している。今後も継続する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者はおおむね希望通り実施している。		浴槽は一般家庭と同じお風呂でゆっくり楽しく実施している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	医師の指示により一名眠剤服用されているがその他の方は自然入眠で良好な状況を確保している。		一人ひとりの睡眠パターンを配慮し、夜眠れない利用者さんには日中の活動に配慮している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの利用者さんの特技、趣味を把握し支援することで生きがいにつながるよう支援している。		洗濯物たたみ、食事作り、後片付け、カレンダー作り等毎日の生活を活性化するよう配慮している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお金はお預かりしていますが、日用品、化粧品等自由に買い物をする支援をしている。		個々の生活レベルに応じた買い物の機会を支援している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	現在単独で外出する利用者さんはおりません。毎日散歩の時間を作り、職員が同行し支援している。	○	施設としては単独での外出に対する対応は出来ている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望等にてお花見、マリンパーク、イチゴ狩り等出掛ける機会を作り実施している。		利用者の健康状態を検討し努めて行きたい場所には率先して支援している。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のダイアルを支援すれば会話が出来るので、希望があれば支援している。		それとなく会話で家族等に手紙を書いたり、送るのを支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	希望、要請があればいつでも対応できるよう体制が整っている。		個別の外出及び施設の計画で全員で花見、食事会等を実施しておりますが、事前に連絡いただければ訪問優先に対応する。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険制度下では身体拘束は原則禁止であり、その趣旨を理解し取り組んでいる。		施設においては介護保険制度を守り、車椅子の安全ベルトの使用やベット柵(4本)の使用等は行動を制限する拘束の範囲と考え、「事故防止のための拘束」ではなく「どのゆうにすれば拘束しないで安全を確保できるか」という視点で見守りの強化で質の高いサービスの提供を実施している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の自由な暮らしを支え心理的な圧力をもたらさないよう、玄関、エレベターの出入り口は鍵をかけない配慮している。ただ、3Fに位置するため非常口は施錠することがある。		今後も鍵を掛けない見守り強化の介護を継続したい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに最大限配慮し、さり気なく様子を常に見守っている。		利用者の状況(特徴)を把握しており、見守りの強化により確認しやすい位置で行動前の状況を察知し安全を確保している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	内服薬については、一応鍵の掛かる戸棚にて管理している。化粧については管理可能な方は個人管理をしていただいている方もおられる。		将来管理の出来る方が入居された場合は個人で管理していただく。薬等の管理は状況により対応していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	行政等の計画、実施する各種研修には努めて職員を派遣し緊急時の即応体制を整えたい。(救命講習、防災教育)	○	行政の計画に参加して職員による普及教育を実施していきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年度の計画を作成し技術のレベルアップに取り組んでいきたい。	○	全ての職員が応急手当が出来るよう計画を立て実施に向けて努力していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年度計画を作成し緊急時に備え訓練を重ねると共に努力している。		毎年消防署への通報訓練、火災訓練(昼間想定、夜間想定)を実施し成果を上げている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	機会あるごとに家族に説明しおおむね了解を頂いている。		利用者の安全を確保し自由な抑圧の無い生活を確保する反面リスクが予測されます。この件で家族に了解を頂いています。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は利用者の体調把握に常に専念している。又情報の共有と状況により医師、救急車の手配に結び付けている。		職員は些細なことでも神経を傾注対応している。一日二回(勤務交代時)の申し送りの際は細部に亘り情報を共有、交換をする等対応している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の説明で把握している。なお状況により主治医、薬剤師より解説を受けている。		服薬については全員の管理を支援している。日常の変化状況については細部に亘り看護師、医師に通報している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個別に排泄の状況を把握し、状況によりそれぞれ対応している。		自然排便を促すため水分補給、繊維食品及び運動の追加等毎日の生活の中で継続的に対応している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後確実に実施し、支援して成果をあげている。		歯磨き、入れ歯の出し入れ、うがい、入れ歯の消毒及び出血や炎症のチェック等利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう口腔の清潔を日常的にそれとなく支援している。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の過不足や偏りの起こらないよう日常生活、毎日の食事で見守りを重視している。		低栄養状態になっていないか一人ひとりの状態を把握しバランスを確保するよう努力している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症は予防、早期発見、対応策等が重要でありマニュアルを準備し対応している。		マニュアルの通り対応しているが、市内の同業者及び保健所よりその時期の情報を期待している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を短期間の必要量を仕入れ食中毒の防止に努めている。		衛生管理マニュアルがあり其の通り対応している。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	一般家庭と同様に花を飾り明るい雰囲気を出している。		玄関はビル内の1階にあるが段差はなくスロープを設置し又植木等を置いて環境整備を実施している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を採りいれた　手作りのカレンダーを飾り居心地良く暮らせるよう努力している。		職員は利用者の希望を尊重し食堂の配置を変更し、環境の整理、整頓を実施し心地良い環境を目指して工夫し努力している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間しかないが、気のあった利用者同士で居られるような環境を確保している。	○	椅子ひとつの小さな空間ながら「ここは落ち着くのよ」と言われ活用されている。又コーナーを作り、自由に使用できるよう配慮したい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望者には本人の使い慣れた家具を搬入して頂き落ち着いた雰囲気を確保している。		利用者それぞれの好みに応じて居室内の環境を作成、維持している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室毎に空調設備を完備し自由に好みの温度調整が出来る体制が確保されついる。		居室の冷暖房はそれぞれの利用者の自由ですが、健康管理のため職員はそれとなく室温を見守っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行に不自由の方もトイレ、食堂等に自立で移動できるように手すりを完備し、成果を上げている。		職員の見守りに守られ、自立で室内を移動できるよう工夫されている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員の工夫、配慮により特に違和感はなく暮らしておられる。		大きなカレンダーにその月の計画を載せ、皆で共有し、実行している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設の前にある公園は大切な憩いの場所で有意義に活用している。.		屋上での花火見物は大変効果的で多大な成果をあげている。今後も継続したい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)